

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



第18回 へき地教育推進フォーラム

『日本の未来の教育を創造するへき地・小規模校教育』

**北海道教育委員会総務政策局長池野敦氏、本学へき研センター員
水上丈実教授・渥美伸彦准教授、信州大学学術研究院教育学系
伏木久始教授の4名のパネリストによるシンポジウム開催!!**

【203名がオンラインフォーラムに参加しました!!】

令和2年12月17日(木)、第18回へき地教育推進フォーラム「日本の未来の教育を創造するへき地・小規模校教育」をオンライン配信で開催しました。12月3日(木)に開催された同フォーラムの第二部として、4名のパネリストによるシンポジウムをオンライン配信で開催しました。

第一部と同様に、全国19の都道府県から、大学教職員、小・中・高等学校教員、教育委員会関係者など203人もの関係者にご参加頂きました。ありがとうございました。

当日は、千葉 胤久旭川校キャンパス長の挨拶があり、続いてシンポジウム「日本の未来の教育を創造するへき地・小規模校教育」が行われました。北海道教育委員会総務政策局長池野 敦氏、本学へき地・小規模校教育研究センター員水上 丈実教授及び渥美 伸彦准教授、信州大学学術研究院教育学系伏木 久始教授の4名のパネリストによる実践報告が行われました。



フォーラム会場の様子

【次回のフォーラムへも参加希望の声が多く聞かれました。】



主催者挨拶：旭川校キャンパス長 千葉 胤

参加者からは、「初めての複式学級に不安でしたが、“へき地・複式学級だからこそできる”という言葉に、元気を貰いました。」「印象に残っていることは、“へき地教育研究こそが、これからの日本の教育のモデルとなる”ということです。」「へき地教育の状況について、理解することができて大変勉強になった。今後の授業にいかしていきたい。」「全国規模でへき地について学べてとても嬉しい。」とフォーラムへの感想が聞かれました。また、多くの参加者が次回のフォーラムにも参加したい!と期待が寄せられました。

伏木 久始先生からフォーラム後に、ご感想とご意見をお寄せ頂きました。

へき地・小規模校が次世代の教育の先進校になるために

信州大学 大学院教育学研究科高度教職実践専攻長

(信州大学学術研究院教育学系教授) 伏木 久始

私は4年前から、「小規模校の強みを生かす授業づくり」という路線の研修講座を長野県の総合教育センターと共催で開講し、翌年度から県教委の各課とも連携をとって、中山間地域リーディングスクール事業の起ち上げから、へき地教育にもどっぷり携わるようになりました。

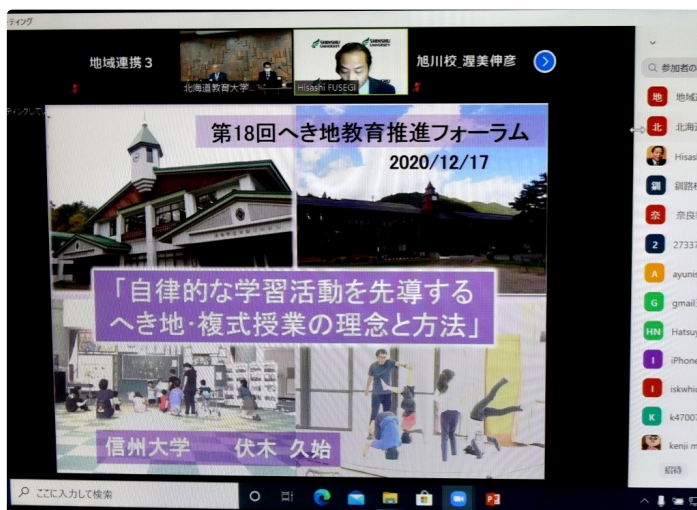
現時点では日本の学校施設や教育委員会の建物内はWi-Fi環境の整備が不十分で、ICT活用が遅れています。私たちの生活や企業社会にどんどん導入が進んでいる、いわゆるIoT (Internet of Things) の流れが学校の常識にならないのは、教員の意識に壁があるからだと思います。教員は、知らないことや自信をもって教えられないことには手を出さず、子どもたちよりも知識・技能が勝っていると思える内容を経験的に慣れたやり方で教えていくことを好む傾向があると思います。多忙化している今日の学校の教員事情においてはそうした傾向が強まるため、必ずしも最新情報とは言えなくなっているとしても、教科書の内容・記述を忠実に子どもたちに教えることがルーチンワークのようになりがちです。こうした授業のあり方に立ち止まって考え、疑問を抱いて問い直しをしない限り、子どもの「問い」を追究課題に据えていく総合的な学習の時間のような学習指導は難しいものになると思います。変化が速く先の予測が困難な現代社会の中で、学校教育が時代的なズレを起こしていることへの懸念が、今回の学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」というフレーズにも込められていると思います。

このように考えてみると、コロナ禍でGIGAスクール構想が前倒しになり、各学校でのICT活用が必須になったことは歓迎すべき外圧だと言えるように思います。特に、深刻な少子化に悩むへき地・小規模校の教育にとって、一人一台タブレットが整備され、校内のWi-Fi環境が充実することで、少人数という条件はむしろメリットになり、教室や学校という物理的条件を飛び越えて、他校の児童生徒とも協働した学習活動が可能となり、多様な教員配置と専門性の担保をオンラインで補うことが期待できます。また、家庭学習と学校の授業との連携も工夫すること

で、落ちこぼしを防ぎ、一人一人の学習保障を確かなものにできる可能性が高まってきました。これらのメリットは少人数学級の方が明らかに有利に展開すると同時に、教員が子どもの目線で、子どもの問いを学習課題に据えた学習指導をすることが増えますから、子ども一人一人の探究的な学びに寄り添った指導を日常的に行う教員に変化してくると思います。教科書を無批判に教え込む教員ではなく、地域の特色や子どもの実態に即した教育内容を工夫する教員を育みやすい環境になるように思います。それが今後の学校教育に求められている方向性であり、小規模校・少人数学級の実践が次世代の教育をリードしていくことになると期待したいです。



信州大学 大学院教育学研究科高度教職実践専攻長 伏木 久始 氏



オンライン配信による伏木 久始氏の講演

【大学・学校教員からフォーラム全般についての御意見・御感想等を頂きました。】

☆コロナ禍で少なくなった研修の代わりとして、職員研修として利用させていただきました。ありがとうございました。

☆へき地・小規模校の可能性および実践的な課題と方法の具体を知ることができるとともに、改めて教育の本質的な基盤について考えを深める有意義な時間となりました。今後も対面開催に加えてWebによる開催を考えていただけるととても参加しやすく、参加者側にとっては大変ありがたいです。ありがとうございました。

☆一人一人を尊重しながら自律と共生を学ぶ「イエナプラン教育」や複式指導の新しい学習過程の提案など、とても刺激になりました。本校の教職員にも資料を回覧して啓発しています。

☆へき地校の状況を理解することができて大変ためになった。へき地校は地域との関連で求められることも多くなると思うが、何か連携する際にもまずは子どもたちのことを考え、彼ら及び学校の負担にならないようにしなければと感じた。

☆上川管内の小規模校の教育実践に大変興味を持ちました。また、少ない人数で子ども達の未来のために奮闘されている先生方へ敬意を表するとともに、中規模・大規模校とは違うご苦労がしのばれました。様々な実践にふれることは学びと同時に、改めて教育者としての資質を内面に問い、今後の教育活動と向き合い挑む気力を高めてくれます。ありがとうございました。

☆北海道は、へき地教育が、地域教育の中核で在り、子供たちの学びと学校の役割の両面から探求しなければならぬと感じた。

☆第1回より合わせて参加させていただきました。印象に残っていることは、へき地教育研究こそが、これからの日本の教育のモデルとなる、ということです。今回、私が初めて聞いた「個別最適な学び」というものを、もっと理解したいと思いました。具体的な実践法、へき地でも大規模校でもできる方法などを知りたいと感じました。最後に、オンラインで北海道を始め、全国の方々とへき地について考えられたことを大変嬉しく思っております。また機会がありましたら、参加したいと感じます。本当にありがとうございました。

☆具体的な実践、その中でも失敗談も交えてほしい。おそらく苦労話にこそ現場の生の声が、反映されるのではないのでしょうか。

☆「僻地」といっても決してひとくくりではなく、その地域ごとの特質が背景にあることを実感した。

☆特に伏木報告について共感しました。(こどもは)「教えなければ学ばない」という思い込みが、行政や教師のなかに今も根深く存在するように思います。そのことを思うとき、個別最適化という名の画一化に陥らないように留意する必要があると感じました。

☆来年度から初めて複式学級となるので不安でいっぱいでしたが、「へき地・複式学級だからこそできる」という言葉に、元気を貰いました。

☆本校も極小規模校なので、課題や新しい視点での授業改善など、目から鱗の情報が多数ありました。本校でも、少しでも参考にさせていただき、今後の授業改善に活かしていきたいです。

☆伏木先生がご紹介された長野県の事例は、へき地で自律的な最先端の教育を行っている実践で非常に興味深く聞かせていただきました。

今後のテーマとして

☆「へき地・小規模校教育実習の取組と学生の成長」についてのお話をお聞きしたい。

☆へき地校における総合的な学習の時間の事例を多く知りたい。

☆小規模校で多面的・多角的な考えが実感できる授業、話し合い 個別最適な学びについて

☆今回はカリキュラムやメソッドの議論が中心だったようであるが、地域や社会の担い手を育成する課題と方法について学びたい。